



文化庁主催「発掘された日本列島2021」展に下ヶ戸貝塚出土遺物が展示されます

文化庁主催の「発掘された日本列島2021」展に、我孫子市下ヶ戸出土の「下ヶ戸貝塚出土遺物」が展示されることになりました。

令和3年6月5日から7月4日まで江戸東京博物館での展示を皮切りに、全国3会場（東京・北海道・群馬）で巡回展示されます。

出展されるのは、「ミミズク土偶（みみずくどぐう）」（全長15.5センチ、1体）をはじめとして、注口土器（ちゅうこうどき）や骨角器（こっかくき）など40点になります。

下ヶ戸貝塚は、縄文時代後期から晩期（約3,500から3,000年前）にかけて形成された貝塚を伴う集落遺跡です。遺跡は北に利根川の低地を見下ろす台地上に立地しており、北に向かって開口する、半円状の貝層と、北西の台地先端部に縄文時代後期中葉（加曾利B式期）から晩期中葉（安行式期）にかけての竪穴住居22軒などの遺構が確認されています。

この貝層は汽水産のヤマトシジミを主体としており、縄文時代、現在の利根川水系には海水が入り込み汽水域を形成していたことが分かります。

昭和56年に最初の発掘調査が行われて以来、これまでに12回の調査が行われています。それらの成果の一部は『千葉県史』や『我孫子市史』などで紹介され、北総地域における縄文時代後晩期の代表的な遺跡に数えられるまでになりました。我孫子市教育委員会では平成25年から、それまで未報告となっていた下ヶ戸貝塚の報告書の刊行事業を進め、下ヶ戸貝塚の性格や特徴が次第に明らかとなってきました。

下ヶ戸貝塚からは日常生活に使用する堀之内式から安行式の土器の他に、多数の土製品・石製品・骨角歯牙製品などの特殊遺物が出土していることが特徴的です。竪穴住居群の発見された下ヶ戸宮前地区からは土製耳飾が469点出土しており、これは関東でも有数の出土量です。この耳飾は、異形台付土器やミニチュア土器などの特殊土器と併せて竪穴住居内からの出土が約8割を占めており、居住空間内での使用が想定される点は大変興味深いです。また別の地区の遺物包含層からはほぼ完形に復元できたミミズク土偶や人面を模した土版など、屋外での祭祀に関連すると考えられる遺物も出土しています。

石器・石製品についても、石鏃・石剣・石棒・独鈷石・装身具など、狩猟に使った道具や祭祀具が多く発見されていますが、チャートや黒曜石といった一部のものを除いては石材の状態で見つかった遺物は少なく、下ヶ戸貝塚は石器・石製品の製作地ではなく、消費地としての要素を強く持った遺跡であることが分かります。

動物骨などを利用した骨角器歯牙製品では、鹿角製の叉状角製品や狼の下顎骨に穴をあけた垂飾などの装身具が出土しており、土製品・石製品など他の特殊遺物と併せて当時集落内では高度に儀礼的な文化が育まれていたことを感じさせます。

下ヶ戸貝塚の遺物は全国を巡回し、来年3月以降、当市に戻ってきます。時期をみて市民向けに企画展、講演会などを行いたいと考えています。



ミミズク土偶



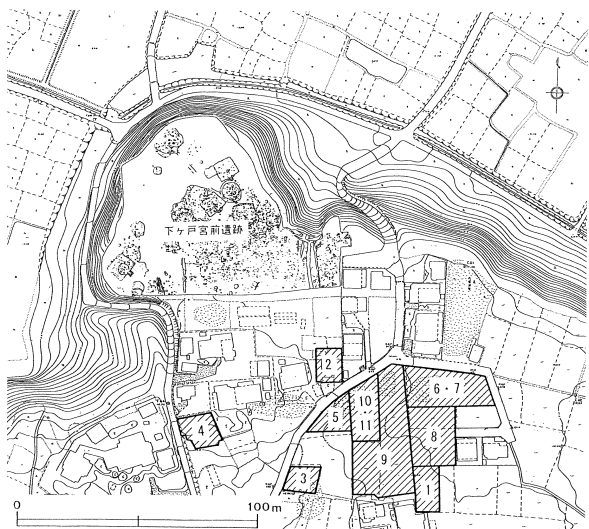
注口土器



下ヶ戸宮前地区発掘調査風景



異形台付土器



◀場所：我孫子市下ヶ戸732他

※現在は住宅地となっています。

【問い合わせ】

我孫子市教育委員会

生涯学習部 文化・スポーツ課

担当 手嶋

☎ 04-7185-1583